



◇巻頭言◇
夕陽會と私

総務 西谷 文子
(昭和44年卒)

北海道教育大学函館校を昭和四十四年三月に卒業しました。大海を漕ぐ小舟のごとく函館駅から羽幌町に向かいました。不安を抱えながらも、全道登録制でしたから、私は喜んで羽幌町に着任しました。駅では先生

たちが迎えてくれました。羽幌町立太陽小学校で、三年生の担任でした。子ども達、PTA、地域の方達が「若い先生が来てくれた」と喜んでくださいました。しかし、記憶のかけらを手繰ってみると、悪

戦苦闘した日々が甦ります。羽幌で一年が過ぎた頃、校長先生より「羽幌支会の夕陽会があるので出席してみては」とのご案内がありました。初めて夕陽会を意識した時で、おそろおそろの会合に出席しました。その席で、支部長さんより「函館に帰りたいですか？」と問われ、私は「はい」と応えました。そうこうしている内に、羽幌炭坑閉山の話が持ち上がっていて、それに伴い、私は函館に転勤となりました。

た。助けてくれる頼りになる夕陽会でした。私は、橋田前会長の時から、夕陽会本部総務の役を仰せつかっております。一番心に残っているのは、函館校に教員養成機能の存続のため地域の熱い要請を受け、組織の総力をあげて運動した事が、ついに実を結んだ時でした。二年も三年もの運動でした。

最近ラジオで聞いた言葉、先義後利を地でいく事でした。義を尽くす事が信用を得て、応援していただける事に繋がったと思います。この時も夕陽会の組織の偉大さと力を感じました。

現藤川会長は、たくさんの新しい取り組みに着手しています。例えば、夕陽会の未来を担う母校学生三、四年生数十名を本部大懇親会に招待した事です。夕陽会の魅力を感じて欲しいとの思いからでした。また、平成三十年夕陽会創立百周年を契機に夕陽会の伝統や強みをしっかりと引き継ぎながら、新たに「会社員・公務員部会」を立ち上げるなど、多様な職種の間窓が集う組織づくりを進めています。

会長の掲げる、故きを温ねて新しきを創る、という「温故改新」の意気込みを感じるものです。本部の会議に出席していると、その取り組みがひしひしと伝わってきます。

これまでの教員中心の夕陽会ではなく、各界で活躍する若手会員に力をお借りしたいです。そして、更なる百年へ新しい歴史を築く担い手となって頂けることを切望いたします。



いざりび鉄道

第232号

栄誉に輝く同窓



同窓の皆様へ感謝して

七飯町立大沼岳陽学校長 榎山 聡
(平成16年院卒)

この度、図らずも、令和三年度北海道教育功績者の栄に浴することとなりました。私のような浅学非才のものにとりましては身に余る光栄であるとともに、大変恐縮しております。また、七飯町教育委員会をはじめ、多くの素晴らしい先輩や同僚・後輩に恵まれたお陰であると心から感謝申し上げます。さらに、今年の十名の受賞者には、以前一緒に仕事をした仲間が四人含まれており、うれしさが倍増しております。今回の受賞に際しまして、夕陽会藤川隆会長をはじめ、同窓の皆様から心温まるお祝いや励ましの言葉をいただきました。同窓の絆を強く実感したと同時に、いただいた言葉の一つ一つがズッシリと心に深く刻まれ受賞の責任も感じました。

例年であれば、ホテルライフオー卜札幌で授賞式が行われ、北海道教育委員会教育長様より表彰を賜る予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、札幌での授賞式は中止となりました。後日、北海道教育庁渡島教育局長谷垣朗様より大沼岳陽学校において、七飯町教育長與田敏樹様及び大沼岳陽学校教職員のご臨席を賜り、ミニ授賞式を催していただきました。札幌での厳粛な授賞式は一生に一度の素晴らしいもの

でしようが、私の身近な皆様に囲まれての受賞は、私の身の丈に合っていて感動的なものでした。

私は、夕陽会の先輩に新人の時から、教師としての心構えや児童生徒への指導の仕方、授業に対する考え方など、一から十まですべてを指導していただきました。また、夕陽会本部の仕事を仰せつかった時には、東北や道内各支部の同窓の皆様に出会う機会に恵まれ、夕陽会への熱い想いや同窓の絆の素晴らしさを身をもって教えていただき、人と人のつながりがこそ最大の財産であると考えられるようになりました。そして、教師は、人と人のつながりの中にこそ存在する役割であり、そのつながりをより広く、深く、そして長く続けていくことができる人間を育てることを目指すようになりました。今後は、この受賞の重さと責任を背負いながら、人と人のつながりを大切に、自分らしく生きていきます。

結びになりますが、どんな時代になっても、同じ時間を過ごし、そこで育まれた仲間の絆をいつまでも大切にできる「場所」としての夕陽会に期待するとともに、会員の皆様のご活躍とご多幸を祈念し、感謝とお礼のご挨拶と致します。

受賞(章)おめでとうございます

＊瑞宝双光章 (高齢者叙勲12/1)

白石石太郎 氏 (昭29年II卒)

七飯町鳴川五の七の二八

＊瑞宝双光章 (高齢者叙勲12/1)

野呂 亮 氏 (昭32年II卒)

函館市中道一の一七の七

＊瑞宝双光章 (高齢者叙勲12/1)

小林 登 氏

昭28年室蘭教員養成所卒
室蘭市高砂町四の二四の七

＊令和三年度

北海道教育功績者表彰(12/1)

榎山 聡 氏 (平16年院卒)

七飯町上軍川一八〇の二
七飯町立大沼岳陽学校

＊瑞宝双光章 (高齢者叙勲1/1)

葛西 幸一 氏 (昭32年I卒)

函館市川原町一二の六

＊瑞宝双光章 (高齢者叙勲1/1)

北村 孝悦 氏 (昭29年II卒)

札幌市西区西野一〇条八の二の一九

＊令和三年度

札幌市教育功績者表彰(1/28)

村元 秀之 氏 (昭62年)

札幌市中央区南三西七
札幌市立資生館小学校

＊瑞宝双光章 (高齢者叙勲2/1)

石田 尚義 氏 (昭29年II卒)

鷹栖町北野東四の一の四の六

＊瑞宝双光章 (高齢者叙勲2/1)

葛巻 礼滋 氏 (昭29年II卒)

北斗市七重浜三の一四の三

＊瑞宝双光章 (高齢者叙勲2/1)

高橋 秀行 氏 (昭32年II卒)

函館市赤川一の一二の五

令和三年十二月十五日発行の「夕陽会報・第二三二号」に誤りがありました。深くお詫び申し上げます。訂正して再掲いたします。

＊瑞宝中綬章 (春の叙勲5/1)

中村 紘司 氏 (昭38年I卒)

＊瑞宝小綬章 (秋の叙勲11/1)

芹田重次郎 氏 (昭35年I卒)

＊瑞宝双光章 (秋の叙勲11/1)

町田 宏介 氏 (昭30年II卒)



札幌支部だより

札幌支部長 荒川 芳央

(昭和61年卒 札幌市立宮の森中学校長)

最初から私事で恐縮ですが、昨年春、自身の初任校に異動することが決まり、この一年勤務することとなりました。当時新設校で何もかもが真新しいスタートだったこともあり、右も左もわからないまま、ただがむしやらにもがく、未熟であった自分を思い返し(今も未熟なままです)、恥ずかしさに赤面する思いを味わっています。現在の保護者は、当時の教え子たちで、地域に残っている方々も多くいます。コロナ禍ではありますが、当時を振り返る機会も多くいただき、当時の生徒たちが今は社会の中心で活躍していることを多く知ることができました。そんな当時のことを振り返る機会が多くなった中で、そういえばと、この職場で夕陽会の先輩に出会い、様々なことを手取り足取り教えていただいたことや、夕陽会の懇親会に連れられ、多くの先輩方、同窓の方々とのつながりができたことを思い出しました。大学を卒業し、同窓会に入会してはいましたが、同窓の良さを実感できたのはこの時から始まったのだと改めて思い返しているところで

さて、夕陽会札幌支部の状況ですが、他の支部と同様、札幌支部においても、昨年から引き続き通常の会議さえなかなか開催できない状況が続いています。ですから八〇〇部を超える札幌支部の同窓をつなげる大切な郵送物などの手配も今までは事務局を開催し、多くの仲間が集まって、昔話をしながら袋詰め作業をしていたのですが、ここ最近は何となく苦しい状況です。幹事長の資生館小学校、村元校長先生にご苦勞頂きながら、同小学校に勤務する夕陽会の先生方の手を借りて何とか発送できている状況です。苦しい中ではありますが、何とか最低限のつながりだけは維持できたというところなんです。これまで研修と親交を深めてきた様々な集い(若手研修会・パークゴルフ大会、囲み祝う会、忘年会、顧問・総務会、総会・懇親会)は依然として実施のめども立たず、諸先輩方にも寂しい思いをさせてしまっていると痛感しています。コロナの状況が一日も早く収束し、再び多くの方々と群れ集う同窓会を取り戻したいと切に願うこの頃です。

再び私事となりますが、ここ数年は、体育研究室の同期の仲間との年末のニセコでの集いもできず、三年前から実施を計画していた退職を迎える仲間を毎年囲む企画も流れ、寂しい限りです。とにかく一日も早いコロナの収束を願う毎日です。

檜山は、北海道黎明の地「上ノ国町」を南に置き、秀峰 遊楽部・狩場を望む「今金町」を北に、そして、遮るもののない水平線に沈む夕日を眺めることができる「奥尻町」を西に、全七町で結ばれている管内です。私事です、あと一町を勤務すると管内制覇となるのですが、現状では叶わぬ夢になりそうです。残念！教員採用時から檜山にお世話になり、どの町も、歴史・文化に産業、そして、食・風景に魅力を持ち、たくさんのの方にその良さを味わっていたいただきたいお薦めの地となりました。



檜山支部だより

檜山支部長 米田 昌

(昭和61年卒 せたな町立瀬棚中学校長)

さて、今年度の本支部は、これまでに退職された六十七名の先輩方に支えられ、八十七名の現職会員で構成しています。五年前の平成二十九年年度の現職会員数を見ると百十三名、学校数の減少もありますが、夕陽出身の教職員採用者が減っていることは実感します。しかしながら、改めて会員名簿を細かく見ていくと、教職員以外で檜山管内に在住されている方も多数おられます。そこで、これまで、教職員ばかりで行っていた集いも、民間等にお勤めの方々も交えた集いにしたい(しなければ)と思うのですが、コロナ禍に紛れ、なかなか実行に移せないうまま、月日が流れてしまっています。

支部の活動も滞っております。毎年五月に行います第一回総会は書面開催。歓迎会は中止。そして、二月に行います第二回総会も、この一月二十七日からのまん延防止等重点措置により書面開催。先輩を送る会は中止。この決定をする度に、やるせなさ募るばかりです。今年の私の仕事は、年に二回発行する「夕陽檜山」への巻頭言、「先輩を送る会」のしおりに掲載するご挨拶、そして今回の「支部だより」の各原稿書きだけで終わります。

歓迎会や先輩を送る会では、思い出を語り、今を語り、夕陽讃歌や寮歌に息奮い、エールで心繋がる。あの心地よい場が早く戻ってくることを願うばかりです。

今改めて、今年A4版で発行された会員名簿を開いています。開学精神である「土地墾闢」「人民蕃殖」の書が、今まで以上に威厳高く、重厚に目に映ります。当初は師範学校としての志であったのでしようが、この予測困難な時代にあつては、社会で活躍する全ての人に当てはまる志に思えます。これからも各界で活躍する後輩を輩出する母校・夕陽であることを願います。

支部だより

各界で活躍する夕陽会員



北海道教育大学で得たもの

安藤 創太

(平成28年卒 北海道教育大学函館校学務グループ)

平成二十八年三月に北海道教育大学函館校を卒業し、その後、国立大学法人北海道教育大学に就職し最初の三年間は旭川校で勤務し、平成三十一年七月から函館校で勤務しています。私はこの五年間教育支援グループで主に学生支援を行ってきました。教育支援グループの業務内容は、授業実施のサポートや学生に履修指導を行う教務担当、授業料免除や課外活動関係を行う学生支援担当、就職活動のサポートを行う就職担当など多岐にわたっています。その中でも、現在私は就職支援を主に担当しています。就職支援といっても私が直接学生へ就職支援を行う訳ではなく、キャリアセンターの相談員の先生方が就職支援をし、そのサポートを行うという形になります。キャリアセンターでは、キャリアガイダンス、就職セミナー、インターンシップ、個別指導などを通じて、学生の就職活動の支援を行っています。

特に函館校では個別相談は充実しており、教員・民間・官庁毎に担当の相談員の先生がおり学生さんがリラックスして相談ができるよう体制を整え内定を獲得するまで面接練習や履歴書の添削指導の支援を行っています。

います。学生時代はここまで充実していて親身になって指導していただけたとは思っておらず、利用しなかつたのを今になって後悔しています。この他にも、キャリアの授業では企業の採用担当の方や現職の教員の方を招いて話をしていたり、学生が就活について考えるよいきっかけになると思います。

なお、ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響で就活イベントが中止になったり、オンライン開催となったたりして例年どおりとはいかず、向かい風が吹いている状況です。しかし、そんな大変な状況の中でも就活に励んで内定を獲得したと学生が報告に來たと嬉しそうに話すキャリアセンターの先生方の話を聞くと、他人事ながら私も嬉しくなりました。今後も微力ながらサポートをできればと思います。そして、今後は教育支援グループにとどまらず色々な仕事を経験して成長していきたいと思っています。

私は北海道教育大学函館校で四年間多くのことを学び、成長することができました。これからも私が大学生活で学んだ事を活かし、北海道教育大学に少しでも貢献できるように努めていきたいと思っています。



地域の発展のために

坂本 広樹

(平成16年卒 青森県教育委員会文化財保護課)

私は、平成十六年に北海道教育大学総合課程社会文化情報コースを卒業しました。

大学卒業後、航空自衛隊に入隊し、自衛官として各地を転々としていましたが、現在は地元青森県の職員として、青森県教育庁文化財保護課総務グループに所属しています。

業務内容は、三内丸山遺跡や青森県立郷土館等、文化財に関する予算を担当し、関係部署との連絡調整や財政当局との折衝を行っています。元々、博物館が好きで、学芸員の任用資格取得を目的に進学したため、現在の業務は自分に合っていると考えています。初めて学ぶことも多く、勉強の毎日です。

自衛隊の業務もハードでしたが、今の仕事(業務)も予算折衝などが夜遅くまで行われます。繁忙期は体力的・精神的にも大変ですが、その分、予算を獲得できた時の達成感も大きく、やりがいのある仕事です。

特に今年度は「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録や、新型コロナウイルスに係る補正予算等、例年にはない業務があり、目の前の仕事で手一杯ですが、周囲の人たちにサポートして(助けて)もらいながら、対応しています。

自衛隊勤務時代に走り始めた(走らされた)ことをきっかけに、マラソンが趣味になり、函館マラソンに

も毎年参加していました。終盤のともえ大橋の往復が非常に辛く、毎回来年はもう走らない!と思いつながら走っていますが、不思議なものではないかと次もまた走りたいと思ってしまう。学生時代はまったく運動する習慣がなかったので、函館は観光名所も多いので、今になってもっと函館の街を走っておけばよかったと思っています。

大学を卒業してから、久しく北海道教育大学とは関わりが薄くなっていましたが、以前学校教育課に勤務していた際、北海道教育大学函館校出身の指導主事からのお誘いがきっかけで、夕陽会青森西北五支部の総会に参加することができました。

教員でもない私が参加してもいいのだろうかという不安でいっぱいだったのですが、西北五支部の皆様は温かく受け入れてくださりました。それから毎年総会には参加し、数年前から西北五支部の会計を務めています。最近では新型コロナウイルス感染症の影響で、開催を見送っている状況ですが、開催されることを楽しみにしています。

最後に、今後も西北五支部の皆様をはじめとして夕陽会の先輩方には業務等でお世話になることもあると思いますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



つながり

武内 咲子

(令和元年卒 北海道森町立さわら小学校教諭)

令和元年度に北海道教育大学函館校地域教育専攻を卒業しました。その後、森町立さわら小学校に配属され、二年が経とうとしています。困ったときや苦しいときに、寄り添って相談に乗ってくれる同僚と素直で元氣いっぱいの子どもたちに恵まれて日々過ごしています。

昨年度は一年目ということもあり、働き始めて右も左も分からず、手探りの状態でした。通常学級二年生の担任を受け持つことになりました。現場で行われていた行事や授業も例年通りには行えず、中止や縮小、授業形態の制限がありました。初任者だった私は例年行われていた流れが分からず、不安を抱える日々でした。授業を行う中で特に難しさを感じたことは、言葉選びです。普段何気なく使っている言葉の意味が伝わらないことがあり、易しい言葉に言い換えることの難しさを感じました。しかし、新しい知識を獲得していく子どもたちの「なるほど」と輝いている顔を見て、教職のやりがいを実感しました。

によって私なりに向き合ってきました。人それぞれ苦手なこと、得意なことがある、という至って当たり前のことに改めて目を向けることができました。また、普通とはなんだろうというのを今も考え続けています。ちなみに、右上の私の顔写真は現在担任している教え子に撮影してもらいました。良い写真になりました。

社会人になってからこの二年間、コロナウイルスとは切っても切れない関係となってしまいました。そのせいでと言わなければならないが、大学時代の友人や恩師とのつながりをより強く感じるようになりました。私が卒業した年は、卒業式が中止になりました。卒業論文の発表会のあとの祝賀会を最後に、未だに会えていない友人が多くいます。しかし、直接会わずとも、スマホなどを使って画面越しに会ったりメールのやりとりをしたりして心の支えにさせてもらっています。またいつか、会える日を夢見て、それぞれの場所で切磋琢磨しています。

夕陽会の皆さまにおかれましてはいつもご支援いただき、感謝しております。今後ともお世話になります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願致します。



これまでの学びを振り返って

益山 友和

(平成13年卒 千歳市立北進小学校教諭)

私は、平成九年の四月に北海道教育大学函館校に入学しました。大学

深めることができました。

在学中は、知的障がいのある子供たちに安全な遊び場を提供することを目的としたサークル活動「じょうしょう（旧情緒障害児研究会）」やボランティアネットワークに所属し、子供たちとの活動を通して、障がいのある子供たちの余暇活動の在り方について学ぶことができました。また、大学入学当時は、障がいのある子供たちのためのサマースクールが初めて開催される時期であり、同じ専攻の先輩方を中心とした実行委員の方々が熱心に準備を進められていた姿が印象に残っています。その姿に刺激を受け、学年が上がると私もその運営に携わらせていただく機会を得ることができました。「子供たちのために」という共通の目的をもった実行委員としての活動を通して、組織運営の在り方や協力してくださる方々との連携の仕方を学ぶことができたこと、そして何より、子供たちが充実した時間を過ごすために試行錯誤を重ねたことは、とても貴重な経験となりました。さらに、教育実習においては、指導教官をはじめとした先生方から多くのご助言をいただくことができ、子供たちの個性に応じた指導・支援の在り方や授業作り、進め方等について学びを

大学卒業後は、期限付き任用として中学校（特別支援学級）で勤務した後、高等支援学校（三校）での勤務を経て、現在は、小学校（特別支援学級）に勤務しています。その時々々の役割に応じて、個に応じた学習指導・生徒指導の在り方や子供たちの実態を的確に把握するためのアセスメントの方法、外部機関との連携の在り方、キャリア教育、教育課程の充実・改善、地域支援といった業務上の課題に対応していく中で、多くの方々のご助言やご協力をいただきました。また、職種は異なりますが、特別支援教育の分野において、小中高全ての年齢段階の子供たちとの関わりをもつことができたことは、私自身にとって貴重な財産となっております。今後は、現在勤務している小学校において、子供たちの将来の生活を見据えた上で、適切な指導・支援を行うことができるよう努力を重ねていきたいと考えています。

教育に関わってきたこれまでの経験を振り返ると、学ぶ環境や機会と、出会ってきた方々に恵まれていたことをあらためて実感します。今後においても、皆様からのご指導ご助言をいただきながら、子供たちのために精進していきたいと思えます。

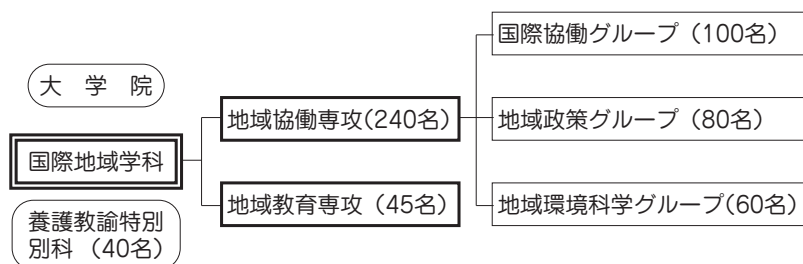
特集 母校のいま、学生の学び

夕陽会は、母校の発展に資するため、学生の就職、生活、スポーツ・文化・芸術等の活動を支援してきました。本年度は、コロナ禍にあって困窮している学生に生活物資を配布する「生活応援プロジェクト」を、令和三年九月と十一月に実施しました。また、令和四年三月には、研究やスポーツ・文化活動等で顕著な業績を上げた学生（個人または団体）を称える「夕陽学生表彰」を行う予定になっています。

さて、ご承知のように、函館校は平成二十六年四月に、「国際地域学科」として新たな歩みを始めました。それから七年が経過しようとしている今、改めて母校の特色や学生の学びについて理解を深めていただくこと、本特集を企画しました。今後、夕陽会の母校支援の在り方を検討する一助にもなると考えています。

国際地域学科の構成

国際地域学科は、国際的な視野と教育マインドをもち、豊かなコミュニケーション能力を発揮しながら、地域を活性化できる人材を養成することを特色としています。本号に掲載してあるように、卒業生の進路は様々ですが、地域の活性化を担う人



材や国際的に活躍できる人材、さらには、地域の教育や社会福祉に貢献できる人材が輩出されています。図のように、国際地域学科は、国際的視野をもって、地域社会の諸問題を解決できる人材の育成を目指す『地域協働専攻』と、地域の教育課題を解決できる人材の育成を目指す『地域教育専攻』の二つで構成されています。

さらに、『地域協働専攻』は、国や民族・地域・文化・社会の違いを超えて、共に行動するための協働力を身に付ける「国際協働グループ」、地方行政やまちづくりを担うためのネットワーキング構築力と実行力を身に付ける「地域政策グループ」、地域の環境問題を解決するための科学的な方法と技術の身に付ける「地

域環境グループ」の三つに分かれています。

特色ある教育課程

「国際地域学科」としての函館校では、地域で活躍する上で必要な実践的な課題解決能力を養うために、全学生が二年～三年次に「地域プロジェクト」の学修に取り組んでいます。「地域プロジェクト」とは、学生がグループを形成して協働で地域課題解決のためのプロジェクトを構想し、地域の人々とも連携して遂行し、その成果を大学と地域に対して公表するという科目です。

学生は、地域が抱えている課題に地域と協働して取り組む中で、地域のニーズに応える生きた学びを通して、通常の科目では得難い実践的な能力を身に付けることができます。また、平均六～七名ずつの学生でチームを組み、地域課題の調査・分析からプロジェクトの構想・実践までを自分たちの力で行うことにより、主体的な実践力やチームワークなどを身に付けることができます。



技能実習生と一緒に「よさこい」を踊る

た地域活性化プロジェクト(弁天町会館)での子どもたちや住民との交流活動など)外国人にルーツを持つ児童への遠隔と対面による日本語学習支援プロジェクト(概要については後述P7)

した。次のように、プロジェクトの内容は多岐にわたり、コロナ禍で活動が制限される中であっても、それぞれに創意工夫し、多くの成果があったことが報告されました。

地域協働専攻

① 国際協働グループ

- 函館の国際交流活動の現状と課題(函館を国際的にアピールするモデルの提案など)
- 地域としての外国人労働者の受け入れ(技能実習生との交流を通じた相互理解、支援など)
- いさ鉄応援隊が国際政治の観点から持続可能な地域モデルを提案するプロジェクト(いさりび鉄道や道南をPRする動画の作成と公開など)

② 地域政策グループ

○HUREインポーはこだてプロジェクト(性の多様性を理解し、誰もが住みやすい社会をつくるためのイベント「虹を歩いて歩こう」の開催など)



市内書店でのイベント開催

○障害のある人の地域生活支援プロジェクト(函館市の障害者福祉の現状と課題の理解、障害者福祉の推進への貢献など)

○函館に暮らす外国人住民から多文化共生を考える(函館に住む韓国や北朝鮮にルーツを持つ人のライフストーリーや暮らしぶりの調査など)

○子どものことを考えた地域をつくる「チャイルドファーストな地域づくり(養護施設の子どもたちに、学ぶことの楽しさやお金の大切さを実感してもらう活動など)

○道南地域くらし応援プロジェクト(概要については後述P8)

○地域とともに原子力発電を環境学

③ 地域環境科学グループ

的に考える(原子力発電所の見学・調査、大学生を対象とした原子力発電に関するアンケート調査の実施・分析など)
○地域における音環境の調査と提案(函館らしい音を集め、ウエブサイトやパンフレットでの発信など)
○はこだてエコライフ推進プロジェクト(函館市におけるエコライフに関する取組の調査、参画など)
○キャンパスを中心とした地域の環境および景観の向上(概要は後述P8)
など、八プロジェクトの成果発表がありました。

地域教育専攻

○Enjoy Studyプロジェクト(スタディレンジャー(ゲーム感覚で学習を楽しみ、学習意欲を高める活動の工夫と実践など)

○万年橋小・寺子屋プロジェクト(放課後の学習支援、学習上のつまづきの分析・対応策の考察など)

○幼児の遊びの中の「学び」の発見プロジェクト(異年齢集団による幼児の遊び



かけ算のじゃんけんゲーム

の提案、実践など)

○特別なニーズのある子どもの余暇支援プロジェクト(概要は後述P8)
など、六プロジェクトの成果発表がありました。

「プロジェクトの概要」

○外国人にルーツを持つ児童への遠隔と対面による日本語学習支援プロジェクト

1 テーマ設定の背景

外国にルーツを持つ子どもへの日本語の指導は日本語教育の領域における大きな課題の一つであり、函館の小学校・中学校には日本語学習支援を必要としている児童生徒がいる。

2 目的

- ・児童生徒の日本語能力の向上
- ・新型コロナウイルス感染拡大の状況下でも行える日本語学習支援の教材づくりと実践
- ・支援実施者の日本語教育実践
- ・地域の教育機関や日本語支援員との連携

3 内容

- (1) 小学校での直接支援
 - ・児童が、専門用語が多くて理解が難しいと話していた社会科と理科を中心に、次のような支援を行う。
 - ・先生の話や指示を英訳したり、やさしい日本語に言い換えて

説明したりする。

・板書を英訳、またはやさしい日本語で説明し、日本語と一緒にノートに書かせる。

・テストプリント内の難しい単語や難しい文をやさしい日本語へ言い換えて説明する。

- (2) 日本語学習支援の教材づくり
 - 自宅でも社会科の授業の復習ができるよう、教科書の内容をやさしい日本語で簡単にまとめた動画教材を作成した。
 - また、対象児童が、一時帰国することを踏まえ、日常で使う言葉を中心に、日本語学習動画(長音についての学習)を作成した。



日本語学習動画(長音の表記)

4 成果と課題

・直接支援の場面で、児童の苦手な部分や理解が十分でない部分を明確に把握し、それらを補う



教材作成を行うことができた。
 ・ボランティアとして支援している我々が、支援の内容をどこまで決めるのか、どのように行っていくべきなのかという判断が難しかった。
 ・函館市教育委員会、支援小学校とで支援方針を話し合っていたが、担任の先生と支援の方向性の確認をする機会がなかったため、うまく連携がとれなかったなど

【プロジェクトの概要Ⅱ】
 ◎道南地域くらし応援プロジェクト
 ～ミニコミ誌の発行～

1 テーマ設定の背景
 ・就職して函館を離れる若者が多い。
 ・学生や若者が、地域のミドル・シニア世代と交流する場や機会が少ない。

2 目的
 ミニコミ誌「MIMIZ」の発行（年二回）を通して、
 ○地域の学生や若者とミドル・シニアとの交流・協働の活性化を図る。

○若者の地域における就業・起業・定住を促進する。

3 内容
 様々な視点から函館を眺め、華やかな毎日を作っていくことを目指して、ミニコミ誌「MIMIZ」からふる」を発行する。

「MIMIZ」の名称に込めた願い
 ・ミミズのように①地面を這う②現場に密着して地域を見る③中に潜る④物事を掘り下げて調べるとなる⑤良い土になる⑥地域の「土」となる人材を育成する。
 ④薬になる⑤自分たち自身が地域にとって有為な人材となる。
 ⑤後退しない⑥いつも前向きである。

4 成果と課題
 ・現地に赴く取材ができた。
 ・取材先から得た情報をもとに、さらなる見聞を得られた。
 ・各SNSでリリース前の宣伝に力を入れた。新聞社やラジオを通じて「MIMIZ」の宣伝ができた。
 ・こだわりが強くなってきた。前期よりも時間がかかったが、良い傾向でもある。
 ・完成度の高いものを作ろうとしたりして、学生らしさが少ない。自分たちの強みとニーズを照らし合わせた活動を目指す。
 ・ピラ、本誌を設置できる場所を増やす。 など

ウェブサイトにて公開中
<http://ndai.info/mimiz/>
 紙版本誌は二月より市内各所に設置予定！



【プロジェクトの概要Ⅲ】
 ◎キャンパスを中心とした地域の環境および景観の向上

1 テーマ設定の背景
 大学は都市部にあるが、キャンパス周辺には様々な植物が見られる。しかし、その多様さに気付いている人は少ない。学内の景観については、改善すべき点がある。

2 目的
 ・学内の自然環境に関する情報（植物を中心）を整理し、発信する。
 ・学内の景観を改善する。

3 内容
 (1) 情報発信チーム
 学内の植物について調査し、マップや花暦を作製して、SNSなどを用いて学内外に情報発信する。
 (2) 景観改善チーム
 厚生会館裏の空き地や学内の景観を改善する。
 ・樹木の剪定をする。
 ・空き地のごみを回収する。
 ・緑地の一部を畑とする。
 ・掲示板等の装飾を工夫し、構内の景観を改善する。

4 成果と課題
 ・学内の植物に関する情報発信を行うことができた。
 ・緑地の景観を維持し続けるためには、継続的な整備が必要である。不法投棄されたごみが多いため、対策が必要である。 など



【プロジェクトの概要Ⅳ】
 ◎特別なニーズのある子どもの余暇支援プロジェクト

1 テーマ設定の背景
 現在、障害のある人達がマスメディア中心の余暇を過ごしており、選択できる余暇の種類が少ないことから、充実した余暇の過

ごし方ができるよう、遊びの場を提供することが求められている。

2 目的

スペシャルオリンピックス(SO)の活動を通して、障害のある人達の余暇活動の支援や運動ができる場を用意し、楽しんで身体を動かしてもらうことを目的としている。

【スペシャルオリンピックス】

知的障害のある人たちに、様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織。

3 内容

(1) 小学生から大人までを対象とした「バスケットチーム」

- ・ボールになれる運動(ボール回し)
- ・パス、ドリブル、シュートの練習
- ・ミニゲーム

(2) 幼児、小学校低学年を対象とした「ヤングチーム」

- ・ボールを使った遊び(ボール取り競争、ボールはさみジャンプ競争)
- ・縄跳びを使った遊び(へび、縄二本を使ってくるぐる、リンボードダンス)
- ・音楽を使った遊び(音楽の速度に合わせて円になって回る)

4 成果と課題



(1) バスケットチーム

- ・活動で楽しんでいるアスリートの様子を見ることができた。
 - ・バスケットボールの基本的な技術の習得ができた。
 - ・障害の異なるアスリート達が楽しくゲームを行うために公正なルールの設定や、支援方法について考えることが必要である。 など
- (2) ヤングチーム
- ・子どもたちが、計画した活動に楽しんで参加している様子が見られた。
 - ・個人の参加意欲に差が生じた。
 - ・様々な運動をバランスよく活動に組み込む工夫をする。
 - ・集合、あいさつなどの指示を明確にする。

・参加者の興味を引くような活動案や教材を作る。 など

学生は、「地域プロジェクト」だけでなく、様々な授業においても、地域をフィールドにした実践的な学びをダイナミックに展開しています。その一つに、「HAKODATEコンシェルジュ」(函館校が独自に認定する資格)を養成するプログラムの一環として行われている「地域づくり支援実習」があります。

【HAKODATEコンシェルジュ養成プログラム】

道南地域の観光や教育の面に焦点を絞り、地域に関する深い知識、地域の潜在的な力を引き出す能力、地域の魅力を情報発信する能力を身に付けるプログラムです。学生は、プログラムに定められている科目を履修し、単位取得することで、「HAKODATEコンシェルジュ」の資格が与えられます。令和三年度からは、「国際地域イノベーター人材養成プログラム」として進化し、観光や教育の面のみならず、地域課題を多角的にとらえ、グローバル共生社会を主導する革新的な人材の育成を目指しています。

【「地域づくり演習」の概要】

・道南の自治体などで、約二週間、インターシッピングをしながら地域振興の課題を見つける。本年度は、

二、四年生十九名が夏休み中に、グループに分かれて森町、厚沢部町、八雲町、厚真町に滞在し、野菜の収穫や学校訪問、住民との交流などを行った。

- ・実体験を通して見つけた地域振興の課題(農家の高齢化や後継者不足、過疎化など)の解決策を考え、町や関係者に提案する。
- ・演習報告会を開催し、成果を学内外に発信する。



オンラインによる演習報告会
(令和4年2月3日)

夕陽会としては、今後も大学と協議、協力して学生の学びを人的・物的面で支援していきます。また、学生と協働で取り組む文化活動の工夫、学生から夕陽会への期待・要望等を聞く場や機会の設定、学生支援を機動的に行うための組織の新設なども検討していきたいと考えています。

(文責:本部事務局)



コロナに負けない！ 学生の就職状況

北海道教育大学キャリアセンター長 松浦俊彦
(平成10年生)

新型コロナウイルスの感染拡大が長期化するなか、高い使命感を持って昼夜を問わず対応にあたっている医療機関等にお勤めの卒業生のみならず、そしてエッセンシャルワーカーとして私たちの暮らしを力強く支えている卒業生のみならず敬意を表します。

さて、コロナ禍の令和三年三月に卒業した国際地域学科四期生の就職状況を紹介します。卒業生二七五名の進路別の割合は、グラフに示す通り、民間企業五三%、公務員一九%、教員一八%、進学四%と続きます。卒業生のうち、就職希望者（進学およびその他進路を除く）の就職率は九七・六%でした。特筆すべきは、コロナに負けず、就職率がコロナ以前の昨年度よりも〇・三ポイント増加したことです。コロナの影響で企業等の採用抑制・採用中止の動きが広がり、多くの大学で就職率が軒並み低下し、国公立大学では平均二・三ポイント減少しました。しかし、こうした厳しい状況のなかでも、地力を十分に発揮する函館校の学生たちのたくましさは称賛に値すると思えます。

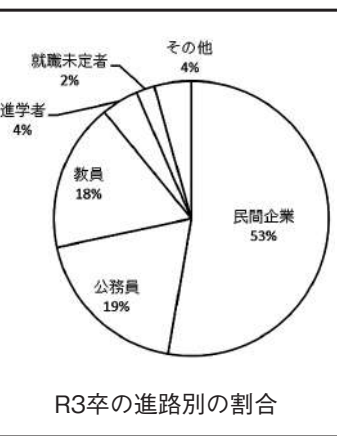
日勤二名、日本生命二名、第一生命二名、明治安田生命五名、NTTファイナンス、ニトリ四名、ツルハ三名、DCM二名、電通デジタル、エイ、日本郵便などの全国展開をする企業をはじめ、JR東日本二名、JR北海道、東京メトロ二名、七銀行、青森銀行、秋田銀行、岩手銀行、さらやか銀行、北陸銀行、北海道銀行、北洋銀行、イオン北海道三名、サッポロドラッグストア二名、森永乳業北海道、三井不動産リアルティ札幌などの各地域の主要企業があげられます。東北・北海道の主要な金融機関を含む金融業・保険業への就職が多いのは例年通りですが、医薬品のメーカー、卸売業、小売業への就職者数が伸びたのが今年の特徴で、未曾有の災禍に最前線に立ち向かう仕事を果敢に選んだ学生たちにエールを送りたいと思います。ありがたいことに、松浦ゼミ卒業生が社長を務める株式会社one netに学生をはじめ採用されました。民間企業においても夕陽会のつながりが確実に芽生えはじめています。官公庁では、防衛省などの国家公務員系をはじめ、東京都庁、北海道庁（教育行政を含む）一〇名、山形

県庁、福島県庁、警視庁、道警三名、岩手県警、宮城県警、三重県警などの地方公務員、札幌市二名、秋田市、大仙市、横手市、花巻市、大船渡市、弘前市、函館市六名、旭川市、釧路市、江別市、室蘭市、厚沢部町、黒松内町、幕別町などの役所・役場に採用されています。

学校教員としては、北海道九名、札幌市九名、青森県三名、秋田県二名、岩手県、宮城県二名、山形県二名、福島県、栃木県二名、東京都二名、神奈川県二名、千葉県二名、静岡県二名、石川県、兵庫県、山口県などで教壇に立っています。また、北海道大学二名、筑波大学、山形大学、北海道教育大学五名、早稲田大学などの大学院に進学し、勉学に励んでいる卒業生もいます。

国際地域学科四期生の就職率は九七・六%と紹介しましたが、それを志望別にみてみると、民間企業志望者が九七・三%と昨年よりも若干落ち込みました。一方、公務員志望者が一〇〇%、教員志望者が九六・〇%と大幅に上昇しました。

この会報の読者の多くは学校関係者と思われるので、学校教員について深く掘り下げて説明しますと、教員志望者のうち正規採用は七五・〇%と好調で、臨時採用となった者は一〇名ほどでした。好調の理由は教員不足が背景にあると推測されますが、多くの学生が希望を叶えています。国際地域学科の四つの専攻・



グループのうち、唯一の小学校教員養成課程である地域教育専攻について詳しくみてみると、卒業生の七〇%が学校教員を目指し、そのうち正規採用率は九〇・三%と大きく飛躍しました。昨今、札幌、旭川、釧路の教員養成課程に入学しても教員を志す学生は六割に満たない本学のなか、七割の教員志望率と九割超の高い正規採用率は函館校の地域教育専攻だけです。この成果は、教育実習等の教員養成教育をはじめ、願書等の添削や個人面接指導等の就職支援など、本学の教育活動を力強く支えてくださる地元函館・渡島の夕陽会のみならずのおかげです。北海道の教員養成発祥の地として、深く根付いていることを誇りに感じます。

おわりに、就職先でも示した通り、卒業生の活躍の場は全国に拡大しております。全国の夕陽会のみならず、各地域の学校現場の状況や各都道府県の教員採用試験の情報などを夕陽会本部を経由して、キャリアセンターへお届けいただけるとう幸いです。

令和3年度 夕陽会研修助成先一覧

(R4. 2. 25現在)

- 1 第30回北海道生活科・総合的な学習教育研究大会 函館大会
- 2 第59回北海道小学校家庭科教育研究大会 道南大会
- 3 夕陽会石狩支部 令和3年度「ふれあいトーク」

(研修部長 函館市立万年橋小学校 高橋 吉隆)



会務報告

《一般会務》

12/2 第4回「令和の夕陽会」検
討委員会を開催する
(函館・附属函館中 教育実践研究棟)

12/9 第5回「令和の夕陽会」検
討委員会を開催する
(函館・附属函館中 教育実践研究棟)

12/15 夕陽会報 第231号発行
12/23 第6回「令和の夕陽会」検
討委員会を開催する
(函館・附属函館中 教育実践研究棟)

1/17 五十嵐キャンパス長と藤川
会長が懇談(函館・函館校)
1/20 第7回「令和の夕陽会」検
討委員会を開催する
(函館・附属函館中 教育実践研究棟)

2/25 夕陽指導主事等会顧問 鈴
木淳 学校教育監 退官記
念講演会が開催される
(札幌・オンライン)

「令和の夕陽会」検討委員会

前号でお知らせしたように、「令和の夕陽会を考える会」から提出された意見書の内容を検討するための特別委員会(「令和の夕陽会」検討委員会)が発足し、具体的な議論が進められています。検討委員会は、藤川会長を座長として、次のように五名の本部副会長で構成されています。

- ・ 伊藤皓嗣 氏 ・ 島津 彰 氏
- ・ 繪面和子 氏 ・ 天野哲征 氏
- ・ 栗田俊一 氏

会務報告に記してあるように、これまで七回の検討委員会を開催しています。今後、数回の開催を経て、検討委員会のまとめを行う予定です。なお、栗田氏は、札幌在住であることから、メールでの参加になっています。また、現職の五名の副会長からも、電話による意見聴取を行っています。

昨年の十二月二十三日に開催した第六回検討委員会には、教育大学キャリアアセンター函館校センター長の松浦俊彦先生にオンラインで参加いただきました。松浦先生からは、夕陽会がこれまで行ってきた教員採用試験対策に加えて、会社員や公務員を目指す学生への支援について具体的な提案をしていただきました。

検討委員会のまとめにつきましては、本部役員会、顧問・参与会の承認を得て、六月二十五日開催予定の本部総会で提案し、協議していただくこととなります。

現在、検討委員会で議論している内容の一部(ある程度の方向性が定まってきたもの)をお知らせします。

- ・ 組織拡充に向けて、会社員・公務員会員を本部役員として選出・委嘱する。
- ・ 本部事務局の負担軽減を図るため、副会長や総務が事務局業務の一部を担う。
- ・ 学生が同窓会を身近に感じられるよう、大学内に夕陽会の掲示コーナーを設置する。

- ・ 学生の生活や研究・文化・スポーツ活動等を機動的に支援できるように、専門部として「(仮)学生支援部」を設ける。
- ・ 新会員を確保するため、同窓会の入会式や説明会を開催する。

今後は、管理職特別寄附や会員名簿の在り方、新しい生活様式の中の本部懇親会の開催方法等について議論を深めることとなります。

会員の皆様には、令和の夕陽会の組織や事業等の在り方について、ご意見・ご要望を本部事務局までお寄せください。

前納会費納入会員名簿追加分

夕陽会員訃報

小笠原 英緒 渡島 昭57
加賀谷 正明 渡島 昭57
野村 幸明 胆振 昭58
加藤 久司 胆振 昭58
笠島 博 胆振 昭60
木村 まどか 札幌 昭58
楠本 直樹 札幌 昭58
小島 永光 網走 昭59

若山 勝博 昭32 養成所1・5・6 逝去
小樽市赤岩1の6の14 宏之氏
吉本 慧氏 昭30 2・4・11 逝去
伊達市山下町271の36 不明
夏井 紀男 昭39 3・1・10 逝去
函館市谷地頭町21の9 不明
染木 成吾 昭28 3・3・20 逝去
千葉県長生郡白子町中里4の459の1 長男 片岡隆氏
能戸 允子 昭37 3・5・30 逝去
苫小牧市泉町2丁目5の1の101 長男 亨氏
清水 雄氏 昭34 3・6・9 逝去
函館市赤川1丁目24の12 妻 美和子氏
山玉三千城 昭42 3・6・30 逝去
函館市山の手3の15の17 妻 陽子氏
川島 常男 昭32 3・8・2 逝去
伊達市山下町132の99 不明
辻口 玲子 昭32 3・9・16 逝去
七飯町本町7の658の29 夫 直樹氏
越前 和子 昭24 3・10・11 逝去
函館市時任町26の28 長男 欣之氏
早藤 弘泰 昭41 3・12・9 逝去
札幌市南区石山1条7丁目26の1 妻 多賀子氏
半田 精一 昭31 3・12・18 逝去
函館市桔梗町397の5 妻 久美子氏
大塚 憲弘 昭34 3・12・19 逝去
北斗市追分4の10の43 妻 蓉子氏
渡邊十四彦 昭25 3・12・23 逝去
七飯町鳴川2の4の5 妻 文子氏
新井田治子 昭28 3・12・27 逝去
札幌市西区二十四軒4条5の12の15 孝裕氏
丹代 宏 昭35 3・12・31 逝去
函館市梁川町6の10の1603 妻 淑子氏
石山幸太郎 昭27 4・1・4 逝去
函館市本通2の52の11 妻 澄江氏
山崎 望 昭28 4・1・8 逝去
神奈川県海老名市東柏ヶ谷4の26の1の701 長男 暢氏
高橋 徳吉 昭34 4・1・15 逝去
函館市宝来町14の22 長女 梅崎由樹子氏
阿部 陸雄 昭23 不明
函館市日吉町2の25の25 長男 一郎氏
斉藤 忠志 昭31 4・1・16 逝去
北斗市市渡749の2 妻 京氏
種谷 早苗 昭33 4・1・18 逝去
函館市杉並町19の21 夫 俊一氏
岩井 悦子 昭37 4・2・10 逝去
函館市本通1の13の20 弟 隆氏
酒井 義雄 昭32 4・2・21 逝去
函館市本通4の22の3 弟 龍雄氏
(令和4年2月25日現在)

令和4年度 北海道教育大学夕陽会 本部総会・大懇親会・全国支部長会議のお知らせ

日時 令和4年6月25日(土)
会場 函館国際ホテル(〒040-0064 函館市大手町5番10号 ☎0138-23-5151)
・令和4年度 全国支部長会議 13時30分～15時30分
・令和4年度 総会 16時～17時
・令和4年度 大懇親会 17時30分～20時

※新型コロナウイルス感染症の流行状況により、延期または中止する場合があります。

編集後記

依然として、困難な状況が続いています。全国的には、新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が減少傾向との報道がなされておりますが、病床使用率や死者数は、まだまだ安心できない数字が並びます。

◆経済がうまく回らない影響で、ガソリンをはじめ、様々な物価も値上がりしが止まりません。◆国際社会に目を向ければ、ロシアとウクライナの関係が悪化し、軍事行動に発展しました。◆平和の祭典である冬季オリンピックが北京で開催され、さあこれからパラリンピックという一方で、新たな紛争の火種が大きく燃え上がってしまいました。

◆善と悪などの、相反する状況が同時に存在する今の国際社会。多様な価値観が毎日生まれるような時代。◆夕陽会は同窓の絆をより一層強めながら互いに手を携え、この困難な状況の中、希望を抱いて歩み続けます。◆新年度が明るく元氣な毎日であることを祈りつつ、夕陽会報第二三二号をお届けします。

(情宣部長 樫野 人範 記 昭60卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041-0806 函館市美原3丁目48番6号
北海道教育大学附属函館小学校内
夕陽会本部事務局
電話番号(0138)46-2235
夕陽会専用(0138)34-5520
FAX番号(0138)47-7376
e-mail:sekiyoukai34520@gmail.com

題字 文化勲章受章者 金子寛蔵(鶴亭)氏(昭4卒)